

論文審査の要旨

報告番号	甲・乙 第 2725 号	氏 名	新垣達也
論文審査担当者	主査 板橋 家頭夫 副査 長塚 正晃 副査 泉崎 雅彦		
(論文審査の要旨)			
<p>妊娠高血圧症候群 (PIH)は、妊娠初期の絨毛発育の異常に起因することが知られており、その発症時期の違いは、発症機序の違いが要因である可能性がある。早発型 PIH は、遅発型 PIH と比べ、妊娠初期の時点で既に絨毛発育に障害があるとの仮説を立て、妊娠初期の超音波検査での絨毛体積および子宮動脈血流とその後の PIH 発症時期との関係について検討した。</p> <p>妊娠 11～13 週に絨毛体積と子宮動脈血流を測定し、その後に PIH を発症したものを、発症時期により早発型 PIH(n=10)および遅発型 PIH(n=67)に分け、それらと正常血圧例 (n=1285)との 3 群間で測定値を比較した。その結果、正常血圧例と比較して、早発型 PIH では既に妊娠初期の子宮動脈抵抗値が高く (1.8(0.6-4.1) vs. 2.4(1.5-3.1), p<0.05)、かつ絨毛体積も有意に小さかった (62(14-162) vs. 43(28-57)cm³, p<0.05)。一方、遅発型 PIH には有意な差を認めなかった。</p> <p>この研究は、その後に早発型 PIH を発症する妊婦では、妊娠初期に既に子宮動脈の血管抵抗が上昇するとともに、絨毛発育が障害されていることを超音波学的に定量的に初めて評価したものであり、PIH の発症機序の解明および早発型 PIH の発症予知に寄与する有用な知見を含んでおり、学術的に価値があり、本論文は博士学位授与に値すると判断した。</p>			
論文題名 : Prediction of early- and late-onset pregnancy-induced hypertension using placental volume on three-dimensional ultrasound and uterine artery Doppler. (妊娠初期の絨毛体積・子宮動脈血流による妊娠高血圧症候群の発症予知)			
掲載雑誌名 : Ultrasound in Obstetrics and Gynecology Vol.45 No.5 P539-43 2015 年 掲載済			

(主査が記載、500 字以内)